フォート・ドウラーの大虐殺

Dungeon 誌#157 掲載“ Massacre at Fort Dolor ”
http://www.wizards.com/DnD/Article.aspx?x=dnd/duad/20080828
参考：http://d.hatena.ne.jp/Tirthika/20080828
作者：Matthew Sernett／適正レベル：8／適正キャラクター数：5 名／公開日：2008,06,27／頁数：33）

つい最近、強大なホワイト・ドラゴンの襲撃をもはや恐れずに済むようになったばかりの場所で、たびたび叩き潰されてきたとある前哨基地が再建され、一大勢力へと育ちつつあった。砦の壁は頑丈で、そこに暮らす軍人達も非戦闘員たちも、安心してにぎやかな日々を送っていた。しかし、謎めいた旅人が、とても実現しそうもない予言をもたらしたときから、一連の事件がフォート・ドウラーを――そしてそこに住まうすべての人々を――再び脅かし始めた。

『フォート・ドウラーの大虐殺』は 5 人の 8 レベル PC のための D&D アドベンチャーである。シナリオは文明国家の辺境の、気候は寒冷で山がそびえたち、暗い森が住民を常に脅かす場所を舞台としている。

冒険の背景

1 世紀以上昔のこと、ひとつの砦の町がとある繁栄した国家の辺境に建設された。この砦の町は、その国の有用な資源や、いまだ文明化されていない地域を抜ける交易路を守るための軍隊の駐屯地となった。その地をとりまく山々は貴重な鉱石に富み、森は貴重な材木の産地で、そこを流れる川から肥沃な土が農地にもたらされていたのである。

不幸なことに、その地はまた恐るべき危険も潜んでいた。その最大のものは、強力なホワイト・ドラゴン、フライスティオマギサントであった。砦の町が彼の注意を惹くだけに大きくなるや否や、ドラゴンは町を破壊した。問題の根本はなんであるのか理解しなかったその国の指導者は、砦を再建した。砦の町は再び栄え始めたが、それは単にドラゴンの再びの怒りの対象となるだけであった。これが何度も繰り返され、その度に多くの命が失われた。

とうとう、不幸な住民達によってフォート・ドウラー（“ 嘆きの砦 ”ほどの意）と呼び習わされるようになったこの砦の町がまたもやドラゴンの襲撃を受けるまでに大きくなったとき、勇敢な冒険者の一団がフライスティオマギサントの氷のねぐらを襲い、ドラゴンを倒した。ドラゴンの脅威が排除されたというので、砦の町はようやくこれまでよりももっと派手に反映することができるようになったのである。鉱石掘りや樵、農民達、そして職人達はじきに、このフォート・ドウラー周辺の豊かな土地が素晴らしいものを与えてくれることを知った。かつては悲嘆の地だった町は、いまや人々に幸運をもたらす場所となったかに見えた。

ドラゴンがいなくなってから 2 年が過ぎ、フォート・ドウラーはここへの駐留を命じられた軍隊にとってさえ死以外の何かを意味する場所となった。ドラゴンの襲撃を生き延びた土地の住民は過去の悲劇を忘れ始めたが、しかし、新たな脅威が育ち始めていた。

ホワイト・ドラゴンのねぐらだった場所は、九層地獄第二層ディスの領域へのポータルが存在したが、力あるドラゴンは何ものにもそのゲートを開けることを許さなかったので

ある。ドラゴンが倒されたことで、件のポータルは再び、デヴィルどもがこの領域にやってくるための通り道となった。トリレステという名のハウリング・ハグがこのポータルのことを知り、ドラゴンの死後、そのねぐらに入り込んでポータルを開いたのだ。

ポータルをくぐって最初にやってきたデヴィルは、クセリオーペという名のサキュバスであった。彼女はイキロットという名のチェイン・デヴィルに仕えていた。イキロットはクセリオーペに、件のハウリング・ハグを助けてポータルを取り巻く一帯に混乱と不審の種を撒くようにと命じた。その間に彼はデヴィルの一団を招集し、この地に自らの足場を築くための軍勢をつくりあげようとしたのである。クセリオーペは素早く状況を調べ上げ、そしてフォート・ドウラーがゆっくりと、しかし確実に、頑丈でよく整ったこの地域の守りへと育ちつつあることを見て取った。急がねばならない、と、彼女は悟った。フォート・ドウラーがあまりに大きく強大になってしまい、やがて現われるはずのデヴィル軍の歯が立たないほどになる前に手を打たねば。

トリレステ、クセリオーペ、そして他数名のデヴィルの配下たちは周辺の農場や樵のキャンプをいくつか破壊したが、鉱石掘りのキャンプには手を出さなかった。脅威は山からではなく森からやってくるように見せかけようとしたのである。それからクセリオーペは変身の能力を使って、攻撃を受けた農場のたった一人の生き残りに化けた。襲撃の調査をしていた兵士達は彼女をフォート・ドウラーに連れ帰った。彼女は兵士達の隊長――レヴィンス隊長と呼ばれる、厳しいが尊敬されている兵士だった――を魅了した。クセリオーペに操られたレヴィンス隊長は、それとは知らずにトリレステとクセリオーペが手配した待ち伏せの場所へと警備隊を送り出してしまった。というわけで、今では軍勢はほんの僅かな一団しか残っていない。それも、防衛にはもっとも不向きで箸にも棒にもかからない連中ばかりである。

周辺への攻撃を開始する前に、トリレステは年老いたドワーフの隠者の姿に化けた。彼女はフォート・ドウラーに入り、予言を喚きたてた。これは例のポータルのことを誰にも気付かせないよう、街の人々の注意をドラゴンのねぐらから引き離そうとしてのことであった。また、偽の予言で街の人々の心を動揺させ、デヴィルにとって都合の良い決定を下させようということも考えていた。

彼女は雪崩亭の正面に立ち、彼女が見たヴィジョンについて語った。そのヴィジョン（実はそんなものは元から存在しないのだが）に基づき、彼女は次のような予言を語った。

- 暗い森の中で危険が起ころうとしている。材木を求めて森に入った樵たちによって、それは長い眠りから目覚めたのだ。
- 森からやってくる邪悪は、最初にその周囲にいる樵や農民を殺すだろう。
- 1人だけがその襲撃を生き延びる。そしてその1人こそが件の邪悪を倒す鍵となる。
- その邪悪との闘いで多くの兵士が死ぬ。しかしその遺体は決して見つからないだろう。
- 邪悪と戦う意志をもってよそ者たちがやってくるだろう。しかしこのよそ者たちは気づかぬうちにフォート・ドウラーを破滅に導いてしまう。

この予言を聞かされた街の人々は、それはみな気のふれたドワーフのたわごとだと思いながら日々を過ごす。しかし、ゆっくりと予言は実現し始める――主にトリレステとクセリオーペ、そして彼らの僅かな手勢が予言を現実にしていっているのだ。樵と農民が死に、1人の若い女性（農民の娘に化けたクセリオーペである）が襲撃を生き延び、警備や襲撃の

調査にでかけた兵士達のほとんどが失踪してしまった。そうして PC たちが到着するに及んで、フォート・ドウラーの住民達は PC たちがなんらかの経緯で街を滅ぼしてしまうのではないかと恐れるのである。もちろん、トリレステは不信をあおり、どこかからやってきた英雄どもがイキロットの軍勢を潰してしまう可能性をできるだけ減らすためにこれらの予言を言い立てているのだが。

冒険の概略

PC たちがフォート・ドウラーに到着すると、街が奇妙に静まり返り、街の人々は彼らと口をきこうとしないことに気付く。商売をしているはずの店のほとんどは閉り、人々はよそ者に対して扉を閉ざし、守備隊の兵舎には数名の兵士がいるばかりなのだ。

技能チャレンジを行なうことで、PC たちはさらなる情報を得ることができる。完全に成功すると、彼らは守備隊の兵士の 1 人から話を聞くことができる。その兵士は「嘆き悲しむ農家の娘に見えるものが、実は意外な正体を隠していることを自分は知っているのだ」と話してくれる。このことから、PC たちはこれ以上ごたごたすることなくサキュバスとの遭遇に直行することができる。部分的に成功した場合、守備隊長の副官スティマーズの注意を惹くことができる。彼は堕落した軍人で、現在のフォート・ドウラーの混乱状態に乗じて軍隊の物資を盗み、ブラック・マーケットに流しているのである。スティマーズおよびその手下と対峙した後、PC たちはクセリオーペとレヴィンス隊長との関係を知り、堕落した兵士を始末した後そちらに向かうことになる。技能チャレンジに完全に失敗すると、PC たちは偽の手がかりをつかまされたことになり、彼らは暗い森へと続く誤った道を辿ることになる。彼らがクセリオーペの仕掛けた罠について知るには新たな守備隊長の到着を待たねばならず、これらの問題の処理の遅れは、後半のデヴィルどもとの遭遇をより難しいものにする。

サキュバスのクセリオーペと対峙した後、PC たちはトリレステがドワーフの隠者に化けて隠れている場所を知る。そこでわかるのは、新たなる邪悪がホワイト・ドラゴンのかつてのねぐらに巣食っていることを示す数々の手がかりである。街の状況が許すのであれば、PC たちはドラゴンの古いねぐらの場所や、そこがどのような状態であるかと言うことに関する情報収集を行なうことができる。PC たちがドラゴンのかつてのねぐらに巣食うデヴィルやその追随者たちを急襲するにあたり、これらの情報はずいぶんと助けになるだろう。

フォート・ドウラー内部や周辺の脅威を排除し、調査を行なうと、PC たちはついにホワイト・ドラゴンのかつてのねぐらに攻め込むことになる。そこは今では数を増やしつつあるデヴィルや、この世のものならぬ邪悪に仕える者たちのねぐらとなっている。PC たちがそこに巣食う連中をすっかり倒してしまうと、彼らはポータルのある部屋を見つけることができる。ポータルを閉じるには、PC たちはこのデヴィル侵攻軍の指揮を執るチェイン・デヴィル、イキロットを倒さねばならない。

クエスト

『フォート・ドウラーの大虐殺』では、PC たちがこのあたり一帯で起きた悲劇の背後に隠れる真の問題を暴き出したとき、クエスト経験点を与えるようになっている。

主要クエスト：ポータルを閉じる

PC たちがポータルを発見して閉じてしまうと、彼らは経験点の報酬に加え、土地の人々の感謝も受け取ることになる。

報酬：1,750XP

冒険の結末

PC たちがポータルを閉じてフォート・ドウラーに戻ると、彼らは気持ちよく迎えられるが、市民の多くは彼らに対してよそよそしい態度を崩さない。ハウリング・ハグがもたらした予言が偽ものであると理解することは困難なことであり、長年フォート・ドウラーを苦しめ続けてきた不幸はそう易々とは市民達の心から消え去ってはくれないのだ。

もし PC たちがポータルを閉じられなかった場合、フォート・ドウラーの中に彼らを手助けできるものはいない。

さらなる冒険

君がこのアドベンチャーを一連のキャンペーンの一部として遊ぶ場合、シナリオ同士を結びつけるために以下のプロットのいくつかを使用しても良い。

- ディスへのポータルを永久に閉じるための真の方法を求めるための、さらなる冒険が必要となるかもしれぬ。
- チェイン・デヴィルのイキロットはディスの主人に仕えていた。この主人は今回の事件の先に繋がるはずの一大計画を持っていたのである。彼は自分の計画をめちゃめちゃにした定命のものどもに復讐を企てるだろう。
- 数世紀前、ドワーフたちの身の上に何がおきたのか？　フォート・ドウラー周辺の山中にはさらなる邪悪がうろついているのではないだろうか？
- スティマーズ副隊長はブラック・マーケットに深く関わっているとある商人に品物を横流ししていた。この商人はおそらく、別のいかがわしい人物と取引をしているのだ。